

東京歯科大学同窓会会報

東京千代田区神田
三崎町一ノ七
発行所
東京歯科大学同窓会
編集兼
発行人 北村勝衛
電話東京(301)3421(代)

十一月十日

第六十九回総会開催さる

次期会長に田丸将士氏選ばれる

本年度同窓会総会(第六十九回)は、去る十一月十日(日)午前十時より多数会員参集のもと、母校講堂において盛大に挙行された。

なお例年の如く前日の九日(土)には全国評議員支部長会が市川の母校進学課程講堂において開催され、諸事項の承認並びに役員任期満了に伴う改選の件が上程され、次期会長に田丸将士氏が推挙された。

明る十日の総会は埼玉一理事の司会により、片山清一副会長の開会宣言をもって開かれた。

つづいて、会長職務代行田丸将士副会長の挨拶があり、議長に五十嵐堯昭氏、副議長に梅津義男氏、議事録署名人に佐竹健造、田口芳治の両氏を選出し報告並びに議案審議に入った。

まず昭和三十八年度庶務報告を後



藤芳郎理事、事業報告を景山博水理事が行い、これに対して高北義雄監事より会計諸帳簿、書類等の調査の結果、相違ない旨の報告があり全員これを承認、ついで昭和三十七年度經常部収支決算報告および特別会計収支決算の承認を求める件、昭和三十九年度經常部収支予算案および特

別会計収支予算案等が上程され、いずれも異議なく可決された。

報告、議事終了後議長より前日の全国評議員支部長会の模様、特に次期会長に田丸将士氏が推挙されたむねが報告され、田丸将士氏立って挨拶された。最後に菅野修副会長が閉会の辞を述べ総会は滞りなく終了した。

等毛布、三等紳士用純毛下着上下など十等まで五十九本の豪華賞品が準備され盛会を極めた。なお等外全に対しては残念賞として同窓会名義の記念タオルが配布された。

全国評議員

支部長会開催さる

同窓会総会の前日九日(土)午後二時より、市川の母校進学課程講堂において全国評議員支部長会が開催された。

議長山本糧三氏、副議長渡辺茂氏、議事録署名人城谷加寿雄、古川忠の両氏を選出し、まず総会に提出すべき報告、議案の審議が行われ、いづれも原案通り可決された。

つづいて役員任期満了に伴う改選の件を上程、満場一致次期会長に田丸将士氏を推挙された。なお会議終了後、市川八幡双葉別館において懇親会が開かれた。

なお今回名誉会員として新たに元母校解剖学教授、現慈恵会医科大学教授新井正治氏が推挙されたむねの報告があった。

引続いて十一時半よりはこのたび藍綬褒章を授与された入江義次、榎原勇吉、大塚貞夫の三氏に対する記念品の贈呈が行われた。正午より一旦休憩、午後一時からはかねて予報の如く癌研究所長、佐々木研究所長吉田富三博士の「腹水腫瘍について」と題する特別講演が開かれ講堂に満つる会員が熱心に聴講、腫瘍に對する新しい知識は全会員に對して極めて有意義であった。

特別講演のあと中外製薬提供の学術映画二巻が上映され、ついで恒例の抽籤会が行われた。参加者約四百名、賞品としては一等洋掛布団、二

×	×	×	×	×
×	×	×	×	×
×	×	×	×	×
×	×	×	×	×
×	×	×	×	×

10



次期会長田丸氏の挨拶

新年名刺交換会のお知らせ

昭和三十九年一月一日午前十一時より東京都歯科大学ホールにおいて恒例の新年名刺交換会を開催致します。

同窓会員諸氏の御来会をお待ち致します。

昭和三十八年十二月五日

会員各位

- 東京歯科大学学長 福島秀策
- 東京歯科大学同窓会会長職務代行 田丸将士
- 副会長 田丸将士

おもな内容

- 第六十九回総会開催さる 1
- 高木圭二郎氏母校教授に新任さる 2
- 昭和三十九年度母校入学案内 2
- 戦没者全国同窓会会員名(統) 8
- 各地同窓会のうごき 9
- クラス会便り 10

学内だより

◇学生会館二号館完成

予てから進学課程構内に建設中であつた学生会館二号館は、去る九月二十八日福島学長をはじめ専門課程及び進学課程教職員、同窓会理事並びに学生多数が参席して落成開館式を迎えた。式後新築の会館内道場で、卓球部、空手部、剣道部の各部門多数による模範演技が披露された

◇初の名譽学位贈呈

去る十月二十二日、本学を訪れたデンマークのP・O・ビダーセン教授に対し、本学初の名譽歯学博士号が贈呈された(別記参照)。

◇東京歯科大学学会総会開催さる

去る九月九日母校において一般演題六十四題の他、竹内教授の宿題報告及び鶴養教授の特別講演が行われた。

◇東京歯科大学同窓会懇親会、大阪で開催さる

第十回日本歯科医学会総会及び日本歯科医師会六十周年記念式に参列した母校同窓会員の相互親睦をはかるべく、大阪支部同窓会が中心となつて去る十月二十七日午後五時半国際見本市会館ホールで表記の懇親会が盛大に催された。

◇高木圭二郎講師母校教授となる

昭和三十四年より本学において医事法制を講義されてゐる高木講師(非常勤)は十一月二十一日付で教授に新任された。

◇人事

滝沢一雄助手(放射線)三八・七・二七
榎山正尚(口外)九・一〇

案内
昭和39年度東京歯科大学進学課程
第一学年入学試験要項(抜萃)

一、修業年限 六年(進学課程二年
専門課程四年)

二、募集人員 一一二〇名

三、受験資格

イ 高等学校を卒業した者および
三十九年三月卒業見込の者

ロ 通常の課程による十二年の学
校教育を修了した者(通常の課
程以外の課程によりこれに相当
する学校を修了した者を含む)

ハ 高等学校を卒業した者と同等
以上の学力があると認められた
者(学校教育法第56条、同法施
行規則第69条、昭和23年文部省
告示第47号)

四、出願手続受付期間および場所

下記の書類を取揃えて昭和三十
九年一月十日(金)から同年二月
二十四日(月)までに到着するよ
うに東京都千代田区神田三崎町一
の七本学教務部へ提出すること。
窓口にて直接差出すものは日曜、
祭日を除き午前九時から午後四時
まで、ただし土曜日は正午まで。
進学課程では受け付けない。
提出書類

1 入学願書(要項に綴込みのもの
の)

2 入学検定料 五千円

3 写真二枚(脱帽三分身、六カ
月以内に撮影したもの二種類)

4 出身学校長の調査書(本調査
書は出身学校長が直接本学に送
付することになっているから、

志願者は願書、受験料、写真を
そえて出身学校長に提出し、学
校から送ってもらう方がよい)

五、試験科目

1 数学

数学Iおよび数学II(ただし
数学Iのうち次の部分は除く。
統計、対数表による計算および
計算尺の原理、いろいろな曲
線、正射影および投影図。三角

形の解法およびヘロンの公式)

2 理科(物理、化学、生物のう
ち二科目)

3 外国語(英語、ドイツ語のう
ち一科目)

4 国語(国語甲)

六、試験期日

三月一日(日)午前九時三十分集
合。学力検査と健康診断

三月二日(月)午前十時から学力
検査と面接

三月三日(火)午前十時から健康
診断と面接

すべて試験は市川市野野町 東
京歯科大学進学課程において行
う。

七、合格者発表 三月九日(月)

八、参考事項

○ 宿舍の紹介 宿泊申込書に予納
金を添え二月八日までに申込み
たい。

○ 入学試験要項 郵送希望者は百
五十円同封のうえ専門課程教務
部に申込またい。

花沢鼎先生頌徳碑建設計画進む

花沢先生の郷里である千葉県大栄
町では予てから先生の偉大な功績を
偲び且つ又後身の教育に資さんとし
て、先生出生の同町に頌徳碑を建立
して永久後生に伝えようと計画中で
あつたが、この程同町町長をはじめ
多数諸氏が発起人となりこの計画の

実行推進にのりだした。本学同窓会
千葉県支部では坂支部長を中心にと
計画に全面的に協力、資金面その
他に諸々御尽力下さっている。本同
窓会としては花沢先生の頌徳碑が一
日も早く建設されることを願ひ金十
万円を拠出することを決定した。

昭和39年度東京歯科大学歯科衛生士学校
入学試験要項(抜萃)

一、修業年限 二カ年

二、募集人員 四十名

三、受験資格

次の項目の一つに該当する満三十
才までの女子

イ 高等学校を卒業した者

ロ 通常の課程による十二年の学
校教育を終了した者(通常の課
程以外の課程によりこれに相当
する学校を修了した者を含む)

ハ 高等学校を卒業した者と同等
以上の学力があると認められた
者

四、出願手続および場所

下記の書類を取揃え、昭和三十九
年一月十日から昭和三十九年三月
四日までに到着するよう東京都千
代田区神田三崎町一ノ七(水道橋
駅際)本学教務課へ提出すること。
提出書類

1 入学願書(要項に綴込みのもの
の)

2 入学検定料 三千元

3 写真二枚(名刺型、脱帽三分
身、裏面に姓名記入、六カ月以
下さい。

4 出身学校長の調査書

五、試験科目

(1)数学I、(2)英語、(3)国語

但し、数Iのうち次の部分は除
く。統計、対数表による計算
および計算尺の原理、いろい
ろな曲線、正射影および投影
図、三角函数。

六、試験の期日と場所

3月11日(水)学力検査

3月12日(木)身体検査と面接、
試験はすべて東京都千代田区神
田三崎町東京歯科大学歯科衛生
士学校で行われる。

七、合格者発表 3月14日(土)

八、その他

入学金 一万二千元

授業料 三万六千元

学生会費 一千五百円

九、入学試験要項

百円同封の上本校教務へお申込み
下さい。

ピダーセン学長ほか

外国大学教授らの本学訪問

さる十月二十六日から四日間には、大阪において開催された第十回日本歯科医学会総会ならびに日本歯科医師会創立六十周年記念式典に主賓として招待された、デンマーク王立コペンハーゲン歯科大学長P・O・ピダーセン博士(現国際歯科連盟副会長)は同月十八日東京羽田空港に日本歯学界各方面の盛大な出迎えを受けて到着後、二十二日午前十時本学を訪問した。同学長はまず



に昭和三十三年に本学名誉講師ならびに東京歯科大学学会名誉会員に推薦されており、今回はその答礼をかねて来校されたものである。日本およびデンマーク両国旗の飾られた本学玄関にて、学長以下諸教授の出迎えを受け、学長室で小憩後、第一

講義室にて第三学年学生に対し、病理学教室田熊助教授の通訳のもとに約一時間にわたり、「歯科法医学」と題する講義を行ったが、多くのスライドを映写しながら述べられたその豊富な内容は学生に深い感銘を与えた。その後学生代表の謝辞と花束贈呈が行われた。

つづいて本学ホールにおいて、さきに教授会で決定された同学長に対する名誉歯学博士の学位贈呈式が、教授ならびに学生の多数参列の下に厳肅に挙行された。まず、杉山学監の開会の挨拶、松宮教授の同学長の業績紹介があったのち、福島学長より第一号の名誉学位記がピダーセン学長に贈られた。続いて同学長は満面に感激の表情をあらわしながら、さわめて謙虚なる態度を以て深甚なる謝辞を述べられた。大井院長の閉会の辞によって一旦式典の幕を閉じたのち、同学長は福島学長ほか杉山大井、松宮、関根各教授らの案内により、全学内の視察を行ったが、同学長は諸研究室の充実、大学病院施設の完備、図書館の整備に多大の感銘を受けられたようである。続いて新館会議室にて全教授出席のもとに盛大な昼餐会が催されたが、この席上同学長は福島学長に記念品を贈られた。かくして、午後一時、再び全学の盛大な見送りのもとに、本学を辞された。

なお、続いて十一月七日には、大

阪の学会に来賓として来日した、米国ハーバート歯学部D・B・ギドン講師(心理学)が来学、視察され、さらに翌八日には同じくスエーデン、王立マルメ歯科大学H・ビヨ

吉田富三博士の

「腹水腫瘍について」をきいて

理事 景山 博水



ン教授(麻酔学)が東京女子医大村瀬教授付添のもとに來学、視察され、本学は、ビヨ教授に名誉講師ならびに東京歯科大学学会名誉会員の推薦状を贈呈した。

程度、時間や数も細胞によって夫々異なることがよく判った。

又一方ナイトロミン等の様な制癌剤を用いた実験も同様にして、同一薬剤に対してもその効果は濃度にして百倍以上も差のある事、又レント

ゲン照射に対しても著しく感受性が異っている事が判つきりと分った。薬剤使用の場合その濃度が癌細胞に対して薬効を表わす前に健康な正常細胞が完全に生機を失ってしまうような事もあると附言された。この事は人間に対しても言われる事と思われる。

治療法は白鼠の実験によれば、早期手術は極めて大切にして、これを完全に摘出する事と、癌は局所的な病状だけを見ても治療法は全身的に行われなければならない、即ち手術十薬剤内服静脈注射等が必要であると述べられた。

第一六二回東京歯科大学学会例会

開催予定

日 昭和三十九年二月二十二日(土) 午後一時~五時
場 所 東京 歯科 大学

演題募集 必ず四百字の要旨を付けて昭和三十九年一月十八日(土)正午までに母校内学会担当幹事米沢教授へお届け下さい

講演会開催御通知

左記の如く昭和三十九年度同窓会講演会を開催致す予定です。詳細は次号でお知らせします。

日 昭和三十九年二月二十三日(日) 午後一時より
場 所 母校 講堂

三崎鈿郎教授、金竹哲也教授帰朝挨拶

吉田博士は一九二四年頃長崎医大教授の時から腫瘍の研究をはじめた。はじめは癌とストローマとの関係(存否)を研究した処、ストローマの存否には関係なく、いろいろな癌のかたまりの中には細胞だけを分離しても生活できる細胞のある事はつきりさせた。

腹水中にうかべた癌細胞を腹膜腔内に入れたり、又アゾ色素をまぜたものを白鼠に食べさせる事によって肝臓を起させたりした。そして上皮性の腫瘍は癌にして、上皮性なきは肉腫となる。又癌には夫々個性がある。同じ様に白鼠に癌細胞を接種してもその細胞の染色体の形、数にも個性があり、分裂の際の染色体のくびれ方にも色々と差異があり、又移植しても血液中での癌細胞の出現の

昭和38年度東京歯科大学同窓会庶務報告

一、現在会員数

内 訳

- 名誉会員 九名
- 一般会員 七、四九七名

- 新入会員 一三七名
- 退会会員 二名
- 逝去会員 六〇名

三、集 会

- 総 会
- 評議員会・支部長会
- 講演会
- 役員会

- 一回
- 一回
- 一回
- 一回

四、昭和三十七年十一月十日午後二時より母校内において全国評議員会(支部長会と同時間催)を開き昭和三十七年度諸報告、会計決算報告議案等につき審議し何れも原案通り承認可決された。

五、昭和三十七年十一月十一日午前十時より母校内において第六十八回定時総会を開き諸般の報告、議案等は何れも原案通り承認可決された。

六、昭和三十八年一月二十日歯科医政に対する本会の方針を定め、本邦歯科医政の向上に寄与すると共に本会の権威を高めることを目的として「東京歯科大学同窓会医政要綱」を設定し、これに因って歯科医政に対する本会の態度、歯科医師会役員候補者推薦及び候補者の擁立、推薦に関する要項を確立した。

七、予て病氣のため順天堂病院に入院加療中なりし会長中井武一郎君は昭和三十八年三月二日午後八時十分安らかに永眠された。

八、昭和三十八年三月三日中井会長の逝去に伴い緊急役員会を招集し会則第十三条の規定に基づき田丸副会長が会長の職務を代行することに決し本会の運営は既定方針に従って行うことを確認した。

中井会長の葬儀は同窓会葬の礼を以って来る三月十七日青山葬儀所において執り行うことを議決した。

九、昭和三十八年四月十五日故中井会長嗣子中井雅行殿より本会基金中へ金貳拾万円也の寄付ありこれを收受した。

十、昭和三十八年七月十日付をもって日本歯科医師会代議員東京歯科大学同窓会代議員(両者共本会関係者)に医政部参与を東京都歯科医師会役員(本会関係者)に対し

医政部相談役を委嘱した。

十一、昭和三十八年九月二十八日市川進学課程において母校本年卒業生から寄贈された花沢鼎先生胸像除幕式及び学生会館二号館の開館式が行われ、堀、景山両理事が参列した。

十二、昭和三十七年十一月二十三日神戸市において開かれた、近畿連合同窓会及び昭和三十八年六月二十五日帯広市において開かれた北海道支部連合会を始め各地支部總會、その他に列席のため出張した役員は故中井会長、田丸副会長、片山副会長外延二四名一ヵ所に及んだ。

十三、本年度中逝去された会員は次の通りである。

- | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| (4)須藤 寛義君 | (43)安永鹿三郎君 | (44)西村俊次郎君 | (2)柴山 隆彦君 | (2)橋本正 雄君 |
| (3)池森 英義君 | (4)小倉 誠一君 | (5)中井武一郎君 | (5)小松 盛長君 | (6)本田 要君 |
| (6)安藤榮之助君 | (7)八田 辰雄君 | (7)水野 勝雄君 | (13)永川 義之君 | (13)札木 照治君 |
| (12)堀 貞一君 | (13)末藤 重徳君 | (14)木許 文佑君 | 2 大住 保君 | 3 木内 忠治君 |
| 73 斎藤 誠君 | 3 大角 龍吾君 | 6 伊藤 龍七君 | 12 神野 欣三君 | 14 津本 福治君 |
| 15. 鈴木 耕一君 | 24 富田 薫君 | 25 勝保 丈夫君 | 28 都築 次男君 | 黒田 五吉君 |
| 新居崎吉武君 | 高田歌三郎君 | 柳本浅次郎君 | 小林 隆君 | 桜井 龍吉君 |
| 辻 邦基君 | 津田 信重君 | 長谷川正人君 | 長沢 安弥君 | 蝦名 徳三君 |
| 岡村 辰二君 | 清水友四郎君 | 神山 一郎君 | 小林 由松君 | 早川啓之助君 |
| 高坂与太郎君 | 安生 眞君 | 荒武 富義君 | 林 一弥君 | 川又幸次郎君 |
| 河野 横君 | 堯山 茂君 | 虎田弥三郎君 | 林 敏郎君 | 岡 孫三郎君 |
| 青柳 保房君 | 大内惣一郎君 | 岡崎善十郎君 | 大関 薫君 | 栗林松次郎君 |

昭和38年度東京歯科大学同窓会事業報告

一、昭和三十七年十一月十一日午前十時より母校内において第六十八回定時総会を開き午後一時から東京女子医科大学教授神原任氏の「心臓疾患について」と題する特別講演を行い、会員は熱心に聴講し盛会であった。講演終了後福利会を催し、沢山な豪華な賞品が出て頗る好評であった。

尚、総会席上永年本会の事務を担当した事務局三浦敏二君に対し感謝状と記念品を贈呈して表彰した。

二、昭和三十八年一月一日午前十一時より母校内において母校と共催恒例により新年名刺交換会を行い、中井会長は年頭に際し本会の運営に関し抱負と決意を披瀝した。

三、昭和三十八年一月二十日病氣のため順天堂病院に入院加療中の会長中井武一郎君に病氣御見舞金を贈呈した。

四、昭和三十八年二月十日午後二時より母校内において母校の主催による故西村豊治君の一周忌法要が執り行われ本会は生花一基を仏前に供し田丸副会長は追悼の言葉を述べた。

五、昭和三十八年二月十三日花沢鼎先生胸像出来上り製作者今里龍生氏より本会へ搬入さ

れ小谷理事立会受領した。

六、昭和三十八年二月十七日午後一時より母校内において花沢鼎先生胸像除幕式並びに母校への贈呈式を行い御遺族、友人を始め多数同窓の参列を得て盛大に且つ厳肅裡に無事終了、つづいて胸像制作者今里龍生氏の紹介及び感謝状贈呈を行った。

本事業は昭和三十七年九月十五日評議員会並びに支部長会に提案し満場一致の賛成を経て花沢鼎先生胸像建立の件可決され直ちに資金募集を行い茲に本事業の達成を見た訳であり資金寄付者へは胸像写真一葉を添え夫々挨拶状を差し出した。

七、昭和三十八年二月十七日午後二時より母校内において講演会を開き「欧米四カ月の旅」と題する母校松井隆弘教授及び「ハミリ世界一周」と題する母校校長尾喜景教授の講演を行った。

八、昭和三十八年三月十七日午後一時より去る三月二日逝去された故会長中井武一郎君の同窓会葬を青山葬儀所において葬儀委員長田丸副会長、講上喜久男、片山清一、菅野修、三君が副委員長として厳肅壯厳に執り行われた。

九、昭和三十八年三月十五日午後六時よりホテル後楽園に日本歯科医師会役員、都道府県歯科医師会長及び代議員（本会関係）を招待して懇談会を開いた。

十、昭和三十八年三月十九日母校内において東京都歯科医師会役員及び代議員（本会関係）の懇談会を開催した。

十一、昭和三十八年三月二十二日新卒業生の本会入会歓迎会を母校内に開催した。

十二、昭和三十八年四月二十四日母校三崎鉢郎教授、同年九月四日母校金竹哲也教授は何れも欧米視察のため出張につき本会基金中より饗別を贈ってその壮途を祝した。

十三、昭和三十八年六月二十一日本会初代会頭血脇守之助先生を始め奥村鶴吉、榎本美彦、西村豊治、河村弘、矢崎正方、中井武一郎七先生等歴代会長の肖像写真を調製して同窓クラブ室に掲げた。

十四、昭和三十八年六月二十三日午後一時より母校内において講演会を開き「兎唇口蓋破裂の治療」と題する母校高橋庄二郎助教授「全身麻酔」と題する母校田村八郎助教授及び「社会保険診療について」A「誤り易い諸点」B「正しい請求」と題する本会重浦靖治、井上久男両理事の極めて有益な講演を行った。

尚、本講演会の席上先般定年制の実施により母校を退職された齋藤久、溝上喜久男、近藤三郎、高辻、渡辺悌の五教授及び本会事務局三浦敬二君に対し感謝状と記念品とを贈呈した。

十五、昭和三十八年七月十五日より母校と共催夏期講習会を開き矯正、補綴、口腔外科保存の四科目につき各科全期を三日間とし七月二十七日無事終了した。受講者七十四名。

十六、昭和三十八年八月十五日午前十一時半より母校と共催、全国戦没者及び戦没同窓戦病死、戦歿死同窓の諸靈に対し追悼式を行い冥福を祈った。

十七、昭和三十八年八月十八日本会名誉会頭榎本美彦君御令室利根殿葬儀に際し本会は香料及び生花一基を靈前に供した。尚、九段坂病院入院中田丸副会長、景山理事は病床を訪れ御見舞をした。

十八、昭和三十八年九月十一日午後五時半より目白椿山荘において同窓参議院議員鹿島俊雄君科学技術政務次官就任祝賀会を催し衆参両院議員数氏及び歯科団体関係者、同窓等多数有志の参加を得て盛会であった。尚、本会においては曩に八月六日ダイヤモンドホテルに鹿島俊雄君を主賓とし、母校校長、元会長を招じて役員と共にその慶びを祝した。

十九、本年度中三重県熊野市大火、北陸上信越地方の豪雪、群馬、埼玉両県下の雷雲による降雹、突風等又台風第九号の被災地西日本十四府県における天災地災についてはその都度その地域内在住会員に対し御見舞を差し出し当該支部長には会被災員の有無調査報告を依頼した。尚、去る四月三十日行われた統一地方選挙において当選同窓者へ御祝い状を差し出した。

二十、本年度中会報六回（自第八九号至九四号）発行全員に配布した。

二十一、本年度死亡又は火災の被災会員に対し共済基金をもって弔慰共済金、罹災共済金を贈呈した会員は次の通り。

弔 慰 共 済 金

西辻 近良君	野沢 清吉君	栗原 令義君	佐久間 穆君	齋藤 誠君
黒田 五吉君	長谷川正人君	清水友四郎君	津本 福治君	高坂与太郎君
小松 盛長君	桜井 熊吉君	西村俊次郎君	水野 勝雄君	安藤栄之助君
柳本浅次郎君	津田 信重君	小林 隆君	大角 龍吾君	柴山 隆彦君
末藤 重徳君	山崎晋一郎君	神山 一郎君	中井武一郎君	小林 由松君
大内惣一郎君	岡村 辰二君	鈴木 耕一君	堀 真一君	木内 忠治君
辻 邦基君	川又幸次郎君	青柳 保房君	札木 昭治君	伊藤 龍七君
荒武 富義君	早川啓之助君	林 一弥君	八田 辰雄君	大住 保君
渋谷 敏郎君	横山 茂君	橋本 正雄君	栗林松次郎君	
林 武夫君	高橋 進次君	小池 増雄君	中村 正尾君	今福 晴夫君

昭和37年度東京歯科大学同窓会經常部収支決算書

自 昭和三十七年 一月 一日 至 昭和三十七年十二月三十一日

2	入 会 金	110,000	△	10,000
1	科 目 費	110,000		
1	入 会 費	110,000		
	子 算	110,000		
	決 算	110,000		
	比 較	110,000		

4	3	2	1		3	2	1		13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		4	3
繰	雑	罹	弔		繰	雑	共	科	繰	予	雑	給	渉	旅	消	通	支	会	事	血	同	科	繰	雑
越	費	災	慰	支	越	取	済	収	越	備	与	外	外	旅	耗	信	部	議	業	腸	窓	計	越	収
金	費	共	共	計	金	入	金	目	金	費	費	費	費	費	品	費	集	議	積	積	目	計	金	入
		済	済	出		金	金								費	料	手	費	立	立				
5,000,000	3,555,000	500,000	1,110,000		5,000,000	3,555,000	1,550,000		4,000,000	1,110,000	300,000	500,000	400,000	250,000	50,000	150,000	400,000	400,000	1,000,000	50,000	150,000		5,000,000	1,050,000
5,770,770	2,933,330	1,160,000	1,190,000		5,770,770	2,933,330	1,833,800		4,000,000	1,110,000	300,000	500,000	400,000	250,000	50,000	150,000	400,000	400,000	1,110,000	50,000	150,000		4,999,990	1,151,000
△	△	△	△		△	△	△	比較		△			△	△	△	△	△	△	△	△	△		△	△
770,770	633,330	130,000	100,000		770,770	633,330	283,800																	
昭和37年1月1日																							昭和37年1月1日	
至昭和37年12月31日																							至昭和37年12月31日	

昭和37年度東京歯科大学同窓会共済基金特別会計收支決算書

昭和37年度東京歯科大学同窓会基金特別会計收支決算書

雑	寄	科		2	1		3	2	1		3	2	1		4	3	2	1		4	3	2	1	
収	付	収		繰	血	支	繰	雑	經	科	繰	門	海	支	繰	雜	門	積	科	繰	雜	積	科	繰
入	金	目	入	越	腸	計	越	取	常	収	越	標	外	計	越	取	標	立	立	入	越	取	立	入
	額	金	入	金	賞	出	金	入	部	目	金	、	出		金	入	、	金	目		金	上	目	入
9,700,000	2,360,000			10,000			100,000	1,000	より			パ	者		1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
9,700,000	2,360,000			10,000			100,000	1,000	積			ッ	饒		1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
△	△	△		△			△	△	立			ジ	別		△	△	△	△			△	△	△	△
1,000,000	1,760,000			1,000,000			1,000,000	1,000,000	積			上			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1,000,000	1,760,000			1,000,000			1,000,000	1,000,000	積			上			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
△	△	△		△			△	△	立			上			△	△	△	△			△	△	△	△
1,000,000	1,760,000			1,000,000			1,000,000	1,000,000	積			上			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000			1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
昭和37年1月1日																							昭和37年1月1日	
至昭和37年12月31日																							至昭和37年12月31日	

花沢 鼎先生胸像建立資金収支決算報告

昭和37年度東京歯科大学同窓会血腸賞基金特別会計收支決算書

科目	昭和39年度東京歯科大学同窓会共済金特別会計収支予算案												昭和39年度予算	昭和38年度予算	比較	
	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1				4
収入	予備費	雑費	給与費	渉外費	旅費	備品、消耗品費	通信費	支部集金手数料	会議費	事業費	血脇賞基金積立	同窓会基金積立	繰越金	雑収入	入会金	会費
支出	計												計			
金額	5,000,000	3,000,000	3,000,000	7,000,000	7,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	6,000,000	6,000,000	1,500,000	1,000,000	800,000	2,000,000	1,000,000	3,000,000
比較	△5,000,000	△1,000,000	100,000	100,000	50,000	100,000	△50,000	100,000	100,000	100,000	△10,000	△10,000	△30,000	50,000	△10,000	300,000

科目	昭和39年度東京歯科大学同窓会基金特別会計収支予算案												昭和39年度予算	昭和38年度予算	比較
	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	4			
収入	繰越金	血脇賞金	支脇賞金	計	科経常部より積立	繰越金	雑費	海外出張者餞別	繰越金	雑収入	積立金	繰越金	雑費	罹災共済金	弔慰共済金
支出	計					計			計			計			
金額	2,000,000	2,000,000	10,000	2,000,000	2,000,000	2,500,000	10,000	1,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	5,000,000	3,500,000	1,000,000	1,500,000
比較	△10,000	△1,000	10,000	△1,000	△1,000	△1,000	△1,000	△1,000	△1,000	△1,000	△1,000	△1,000	△1,000	△1,000	△1,000

戦没者全国同窓会員名(続)

本会報第九十四号に掲載致しました全国の同窓会員戦没者で未掲載及びその後御連絡をいただきました方々の氏名をここに掲げ、心から御冥福をお祈り申し上げます。

Table of names and details for deceased members, including names like 田代順司君, 本村三朗君, 堀田治夫君, etc., with birth dates and death information.

Table of names and details for deceased members, including names like 粟林真久君, 坂上正治君, 菅吉郎君, etc., with birth dates and death information.

Table of names and details for deceased members, including names like 桑野正治君, 島崎清君, 倉林充彦君, etc., with birth dates and death information.

第十回日本歯科医学总会見聞記. 十月二十六、七日の土、日曜日に開会式と大井教授外の特別講演二題、松宮、関根両教授外のシンポジウム『歯牙齲食』が、大阪は中の島フェスティバルホールと大阪城に程近い大手前会館で花々しく繰り広げられた。開会に先立ち、学会の母体たる日本歯科医師会創立六十周年の式典があり、多数の会員功労者に交って、私共も含めて歯科大学教授も多数表彰された。折しも政府発表の藍綬褒章受章者に、入江、榊原、

お願い

次の方々の御家族の御住所を御存知の方は東京歯科大学庶務課へ御知らせ下さい。

- List of names and addresses for family members, including 藤井清, 伊沢豊四郎, 北村定雄, etc., with their respective addresses.

第十回日本歯科医学总会見聞記

教授 米沢和一

大塚三長老の名をみつめて嬉しかった。総会参加者は数千名を算し、両会場共々満員の盛況であった。大阪は第五回総会以来の十年振りの開催地であり、日本歯科医師会近畿北陸地区を基盤としているだけに、緒方終造準備委員長の設定賞行は行きとどいていた。歯科機械展示の日本ホテルで、日曜夜同窓会の集いがあり、校歌の下三百名に近い全国の会衆は、飲み食い且つ語っ



て、大阪の秋の夜を楽しんだ。母校からは六十六名の教員が揃って出席したのも前代未聞か。

因みに昭和五年春、A・D・プラック博士を迎えての第八回日本歯学会歯科分科会は矢張り大阪で催され、歯槽膿漏症の特別講演があり、故遠藤教授の名通訳振りが、東歯在学中乍ら出席した私にも懐しく想起される。本会も歯科基礎医学会最終番組で、歯槽膿漏症のシンポジウムがもたれ、正木教授が司会して居られたが、その正木教授が、昭和五年の分科会参加のみぎり、宝塚温泉の宿舎で、日本で初めての班状歯をみつけて学会に報告されたのである。爾來四年目毎に歯科分科会がもたれて終戦時に至ったが、唯一回だけ、全く独立で皇紀二千六百年記念歯科医学大会が東京でもたれ、当時の九歯科医専が挙って参加したものであ

る。戦後日本歯科医師会学術会議総合歯学会で、基礎学及び臨床三部が、分科会の形で会員研修のため学会発表らしきものが二年目毎にもたれて来た。その後基礎学より口腔衛生と歯科材料器械部門が分立し、臨床で



は放射線が分立して、計八分科が独立の学会をもち、日本歯科医学会の傘下にはせ参じたのは、三年前である(日本歯科医師会雑誌十六巻 八号六六二頁、昭和三十八年十一月 松垣麟三学会長挨拶文より)。然るに日本歯科医師会会長たる中原実名君会頭の挨拶によると、日本歯科医学総会での分科総会学会の前身が、昭和五、十一年東京に於ける第一、二回日本歯科学会分科総会大会とか、昭和六年大阪中山文化研究所に於けるものとされており、磯父故中原市五郎先生の企画として自讃しておられるが(前記六六一頁記事参照)、僅か三年前に八分科会が日本に誕生したのに、三十三年前に分科総会大会が日本で催される理由は見つからない。何か同窓会の学術集いと全国的公認されたそれとを混同しておられるのではなからうかと推察される。その他学会の内容とか前夜祭的、後日物語的なものは次の機会にゆずり、今回は一切割愛する。(元)

学位受領者紹介

荻野 益 男君



オギノマスオ君は和歌山県立海南高校を経て昭和三十三年母校卒。直ちに私共の慶大医学部歯科学教室に入局し臨床のかたわら牛場大蔵教授の御指導をも得て歯性化膿症に関する論文をまとめ同三十八年六月二十四日の同大教授会に提出の論文は、牛場教授主査、小

生他四名調査の下に満場一致通過、九月二十六日付で栄ある新制医学博士号が授与された。歯学出身者第一号である。新博士は郷里和歌山県海草郡下津町で開業の尊父安太郎先生、昭和十六年暮卒の長兄延宏氏と共に、同窓の歯科一家の三男。杉並区高円寺六ノ六四七の自宅には俊子夫人との間に一男あり。歯科医局長として活躍中。主論文『歯性化膿性疾患の細菌学的考察』日本口腔科学会雑誌十一巻、二号(昭和三十七年一月)掲載。慶祝。(中村保夫記)

新刊書評

『野口英世伝』

教授 米 沢 和 一

故奥村鶴吉先生の著『野口英世』(岩波書店、絶版)など従来刊行のものを参照して、野口英世記念会所蔵の全資料を基とし、定本野口英世伝が今般刊行された。人間野口英世とその事績を追慕する上に意義ある資料をまとめた、写真で見ると野口博士の生涯と事績の決定版である。第一部は写真集。百頁余を費し、郷里と家族、少年期、雄飛を前に、研究生活の途上、ロックフェラー研究所時代、故郷へ、中南米にて、西アフリカにて、趣味、のタイトル付で、四百葉に上る記念写真、書簡文、書画が収められている。第二部は伝記で、百五十頁余を費している。母と子、立志、清濁の時代、異郷、苦闘と勝利、故郷へ、献身、のタイトルづき。年譜もあって読者に便宜を図

各地同窓会の動き

福島県支部

とうに立秋は過ぎたが日中はまだ夏の名ごりを残している。それでも朝夕は肌さむさむを感じ虫の声は忍びよる深秋をつける九月十四日に定時総会をもった。会場はこの度新産都市に指定された平市。集う会員三十四名例年なら五、六月に開くのだが、お招きした長尾喜景教授の都合でついつい繰り下げの開催。だが会する会員は本日を鶴首して定刻には

っている。編集には記念会理事長高橋明博士の他福島学長など理事全員が当り、細菌学者田宮猛雄博士を始めとして、教育界から天野貞佑、無着成泰、評論家中島健蔵、実業家高崎達之助の諸氏が口を極めて推賞している。母校創立者・高山紀齋先生の今はなき胸像前での、血脇・野口両先生の大正四年秋の記念写真などは、特に印象づけられる。同窓の皆様の座右に一冊是非備えていただきたいもの。クロス表紙のA4豪華版。アイト紙二九二頁。頒価三、五〇〇円。東京都新宿区大京町二六、野口英世記念会へ申込のこと(振替東京一六〇八二番。母校同窓の方には送料無料の特典あり、必ず同窓の旨申込書に明記のこと。

お詫び
第93号(数字でみるわが同窓の旧制医学博士号)拙文中次の三氏がぬけていたのでお詫び少々追記します。
○増田悦蔵8、○近藤幸太郎9、小川繁樹13 (米沢和一)

大半の参集。型の如く庶務会計の報告から予算の審議、そして役員改選と一渦千里。この間僅か四十分のスピーチは流石同窓ならではの感。次に実もあり肉もあるお話。最後は母校の近況を詳細に拝承、時代と共に移り行くが現として変らぬ水道橋精神を感じ会員相互の和気いやが上にもプラスするに充分、時間が許せばもう少しの声しきりなるも次のスケジュールの関係、これもやむなし。

地元石島公徳、猪狩一郎阿氏の会連當は誠に堂に入ったもの、数分の無駄なく総会場はたちまち宴席に一変。美妓もはんべる頃は潤滑油も程よくまわり宴も最高調。水道橋畔のあの頃あの時代へリバイバルを夢み「校旗はさんたり……」の衷声で閉会。一行は炭鉱のいで湯、湯元温泉に一夜をいこう。ここでも又旧交を温めるグルーブしきり。明くれば十五日デスカッションとして警梯吾妻スカイライン踏破と足をのばす、前夜について朝九時からのドライブは先生にお疲れを倍加させたことと思うが、大橋英夫氏運転する車は良し、腕は良しで誠に快適。眼下の絶景と噴煙上る一切経を指呼に見て千六百米の尾根を走破。少しでも母校の匂いを味おうとする総会不参加会員の待機する飯坂温泉に終点を求めたのは午後三時半。海岸の温泉に味えない山のいで湯にゆっくり御休息とスケジュールしたのも先生の都合で是非帰京となり、又々大橋英夫氏の車で福島駅にかけた時は時間を間違ひ急行を追い郡山で乗車する一駒があつたが、とんだ支部総会とお見すてなく又の日をお待ちする会員の声しきり。以上二日間に亘る総会もなんとか無事終了、来年度を約してお互の健康を祈り散会(等間記)

出席者
梅津正夫、今村武、佐藤正寿、伊藤英雄、武藤美、猪狩政一、本田淳、小汲貢、佐藤晋次、遠藤義平、大谷軍一、須藤正和、水口栄、萩原昭男、原精一、織田豊太郎、小林正一、五代儀昭、猪狩一郎、石島公徳、鈴木

浅草支部

与志、中条正敏、菅波勇、門馬弘、森合芳男、森合道雄、斎藤茂男、西川啓介、栗山一雄、大橋英夫、目黒敏一郎、笠間武雄、入江正澄、小森谷武、本間康男、栗原信治。

昭和三十八年十月十二日(土)午後五時半より爽秋の一夜を第一部座談会、第二部懇親会の形式により田原町割烹「やっこ」に於いて開催した。第一部には母校教授市川病院副院長加藤倉三先生を講師として「レントゲン」を中心とした健康問題という時期に適した名題の下に、先生独特の名調子で有益且つ明日の診療に直結したお話を極めて砕けた名詞調で例のストライド入りで解り易く御説明せられ、お蔭で永い間の疑問が急に解けて一同大喜び会員外の者も加わって熱心に聴きられたのも宜なる故である。閉会のことを小管理事より次いで中久喜支部長より加藤先生に対する感謝御礼の言葉で別席へ皆移った。

第二部 やがて懇親会に入り上席には万難を排し御出席下さった同窓会長職務代行の田丸副会長並びに加藤教授を中心として中久喜支部長と沢口顧問が両隣に着席会員二十四名を加えて合計二十六名の盛大振りで、皆出席と称するも敢えて過言ではないと思ひ御同慶と申し上げる。

司会 小管理事
一、開会のことは 高田副支部長
二、挨拶 中久喜支部長
三、記念品贈呈 前役員 石原副支部長

山添理事 山口理事 熊谷理事 山岸理事 中野君 久木留君

五、新入会員紹介
六、来賓挨拶
七、乾 盃
八、宴会

田丸副会長 加藤倉三先生 沢口顧問

宴酣となるや専属のお姐さんに依る三味オーケストラ、次に中久喜支部長のお家芸磯節から封切誰かの都々逸、ガマの油、クニニヤン、加藤教授の素晴らしい名調子、その他出さうでない石山笛氏等惜しくも時間切れとなり次回に割愛したのも教知れない。就中佐藤徳三郎君の手品が欠席のため見られなかったのも遺憾であった。その他古屋君のアカコーデオ、茂木君の隠芸等もそつとして置けない逸品である。噫笑いの王国奥山に五九郎丈の碑も建ち益々ユニモラスな空気がわが浅草支部の雰囲気となるであろう事を。

九、閉会のことは 川又理事

閉会に先立ち田丸先生の発声にて東歯同窓会並びに浅草支部発展と会員一同の御健勝を祈念すると申され万歳を三唱し、当支部の心の団結を祝福せられたのも心強い極みであった。

出席会員順 中久喜八十、沢口源作、高田輝雄、小菅弘一、山岸昭平、川又正義、酒井照義、渡辺篤、滝沢一郎、山添新一郎、佐藤章、古屋寛、加藤孝澄、武藤十郎、野口英

夫、池野谷博、熊谷一義、山本敏司、小谷富治、斎藤弘、熊沢正敏、茂木健次、中野義基、久木留一広。以上欠席者
石原文海、佐藤徳三郎、本山周次、坂田量平、船坂豊、金子信、下山崇

以上は病氣その他の理由で御出席が得らなかつた事を洵に遺憾とする次第である。「沢口記」
倍増もチト出がらしのよう昨日今日ドタン場で票読みもさせ春歌公一票の懐ろ寒し風算

ク ラ ス 会 便 り

申歯会 (大正十三年卒)

綿績に眼も奪わるる行楽の秋、十一月十日午後五時日本屈指の温泉境別府の観光ホテル鹿の湯に於いて申歯会総会を開催。前日より海陸空の交通網を利用しての九州入り、既に耶馬溪、阿蘇山、その他の名所古跡を観賞探訪の上会場へ繰り込まれた方々も大半あつたようだ。憶えば大正十二年九月の未曾有の関東大震災に遭遇し、楽しめるべき学生時代に

思わざる苦難と忍従とを身を以て体験した我々申歯会員も学窓を離れて早や満四十年。当時の美青年は、何れも殆んどが頭に霜を頂いた老紳士揃い。時の流れは激しく、その容姿にも歴然。然し、四昔前の面影はどこかに強く印象されて懐かしい。お互に懐旧談に将又永い人生の裏街道話や、孫達の自慢話等々話題も盛沢山。やがて別府湯の街のキレイどころも現われて宴も酣、酒盃の交錯も頻繁、余興に移る。数々の別府民謡、舞踊の披露に暫し茫然たり。真に心温まり、ほほ笑ましき情景に、我々クラス会ならではの親近感を深くした。

日頃我々は聖職に、将又雑用に追われ、レジャーを楽しむ機会には余り恵まれてはいない。さればこそ、年に一度のこの楽しい催しには、万障繰り合わせ奮って御出席あらんことを、誌上をかりて極力お奨め申し上げる次第。次回の開催地は、当日協議の結果岐阜と決定。期日は、明年七月頃の予定。何れ地元世話人たる大橋君より御連絡があることと思う。因みに、猪坂、小野寺の両君は御出席の予定なりしも、折あしく御病気の由にて欠席され残念でした。



どうか一日も早く御快癒を祈ります。尚、今回の世話人志賀、後藤の両君には御多忙中熱意を以って終始お世話下さったことに対し衷心より感謝の辞を申し上げます。では来年は岐阜で……会員諸君の御健康を祈る(五島記)。

当日の出席者夫人を加え三十四名(敬称略)……花岡夫妻、十二村夫妻、懸田夫妻、新井夫妻、鈴木 稔夫妻、迫夫妻、多夫妻、氏家夫妻、職員夫妻、大橋夫妻、寺田夫妻、佐夫妻、萩谷、大曾根、光永、福原、永井、向井、原田、五島、志賀、後藤。

更始会 (昭和三年卒)

秋風薫る十一月十日同窓会総会のあと午後五時より日本橋魚久に於いて更始会を開催した。集うもの十六名いつもの顔ぶれの外に大沢、村山両君の珍しい顔もみえる。開会に先きだち、七月末欧州見学より帰朝された山路君撮影の写真による現地の話があり終って開会、塙君より挨拶乾盃型の通りすみ宴会に入る。お互いに話す事は学生時代の事等遠慮ない打興じた場面を展開する。宴たけなわになれば昔なつかしい唄声やかくし芸も飛び出して来る。殊に梅津、大沢両君の美声、畑君のニワトリのなき声等々少しの衰えもない。つもる話は山程あれど秋の夜はいつしか時をすぎし名残りつきない。清水君の閉会の辞により、再会を約して散会した。尚、当日来年五月予定の紀州旅行の日程はなるべく早く決めて貰う事及び病氣入院中の仙台三

宅君に御見舞を送る事等を決定した。又前夜の鶴見鉄道事故により横浜の諸君の参加不能が残念でした。出席者
梅津、大沢、田沢、萩沼、秋山、山口、渡辺、山路、村山、岡本、柳沼、西山、畑、清水、塙、山本。(山本記)

仁峰会 (昭和十五年卒)

この会報に、仁峰会の記事が出ぬと淋しいと、クラスメイトではない同窓からの全くうれいお叱言を頂き感激しました。以下御笑話を。
○五月、蔵王スカイライン開通の日「蔵王」「磐梯」両スカイラインを山形齋藤利世君の御尽力で総勢三十四名で、仙台始発——福島市を大温泉一泊——福島市のコースを大型バス(超一流ですぞ)で動く宴会と東北山系の雄渾な風光を初夏の風に吹かれながら満喫しました。
ことに苗代湖畔の野口英世先生の記念館は思い出です。
○七月、江里口健二君の先導(オペルの新車です)で三浦半島を、東京在在のメンバー十五名ばかりで、みめ麗しき女性の同乗を得て海辺の下ライプを決行しました。(羨ましがらないで、また行きます)

焼宴会でした。加えて、西下中の福島秀策学長の御参加を得て一しほ盛大でした。「鯉」(ヒガイと呼びます)の譚義を学長から拝聴したりしながら投網を願ひ、かつとれた小魚のフライを賞味したり、また思い出深い天気清朗の一日でした。
○二十五周年は翌々年、北海道一周を予定しておりますが、来年は趣向を変えて、北陸路粟津温泉あたりで「ネーベン会」はと提案してあります。名案を幹事まで御知らせ下さい。
○新年度の幹事には、愛知正晴、高田輝雄、田口裕康の三君に私といいたことになりました。よろしく御叱正下さい。
○この十二月辺り旧幹事だった渡辺正信、田岡両君の慰労のための忘年会を計画しております。
○今年、齋藤利世君の句集、山梨古屋富雄君の句集と他のクラス会には見られぬ収獲がありました。
両君、おめでと。さらに頑張ってください。
○暫らく会誌が出ておりませんが今年度はそろそろ作りたいたいが御意をどうぞ (堤記)

一志会 (昭和十七年卒)

先きにお知らせしたように、本年度の総会は、十一月十日、東京本郷の「天龍」で開催されました。大阪学会の後でもあり、かつ、東海道線の大惨事の直後で、列車が開通しなかつたためか、出席の通知を載いはいたが、やむなく欠席された方もあり、出席者は、いつもよりはやや

少なかつたが、関東近県からの参加者を経て、二十三名がいつものように和氣藹藹裡に終始した。
出席者
原学郎、市島力、白井泉、外三千介、大関久磨、大沢進一郎、三村力松、島田恒夫、丸森賢二、関幸一、池田嘉夫、関口敏彦、野口陽、中本徹、児玉良知、田熊恒寿、野口英夫、石田新也、井上汎、鶴養弘、上条雅彦、長谷川正康、渡辺富士夫
また、総会に先きだち、さる十月下旬、大阪に於いて開催された日本歯科大学総会に、期せずして多数のクラスメイトが集まったので、片山、大塚両君のお世話で、十月二十六日臨時一志会を開催した。当日は、幸い連絡のとれた、赤沢調、片山和夫、大西光昌、大塚信一郎、津守剛三、本間藤彦、保富勉一郎、室橋春雄、増田多可夫、三村力松、野口春治、長谷川正康、大野喜市、田熊恒寿、渡辺富士夫の十五名が参集し、盛会であった。この外にも、宇野彰、鈴木義昭、塩田一、佐々木進、西村寛猛、原学郎の諸兄も来阪されていたようであるが、連絡の不備や、時間の都合で参加していただけなかつたことは、お世話下さった片山、大塚両君も残念であったことと思います。

は、目下、会員各位に印刷してお送りすべく、原稿を整理しておりますので、年末にはお届けできると思っております。
(幹事)

いそむ会 (昭和二十六年卒)

真赤な秋の夕陽に映じた浜名湖畔館山寺温泉山水館欣龍で、その日没を契機として、十一月九日(土)本年のいそむ会総会が幕を切って落された。三々五々として全国各地から集った学友諸兄姉には、過ぐる学生時代の面影が充分残されて、「オース」やあ、しばらく「元氣か」という挨拶にも懐かしさが滲んで居りました。

総会はこの度の現地幹事である東海地区の角倉功、北村明、内田安正、山中弘三郎及び原恒夫の諸兄の肝入りで、東海道の美妓を待らせ、差しつ差されつ人類学的研究にまで花が咲き、奇抜な福引で当たった素的な賞品と、田原神社の御守である立派なシンボルを戴いて、各自微笑を含みながら朝を迎えたときは全員くたくたでした。従ってその夜、三池炭鉱の事故や鶴見の衝突事故を知っている人は数人のようでした。
しかしながら、さすがにいそむ会員で、翌朝九時の食事時間には全員さすがに顔色を拝することができましたことは誠に同慶の至りで、食後再会を約して散会致しました。
総会では次のように決定しました。
一、本年度会計報告の承認。
二、お預りした写真は各位に返却して、アルバム作製は一応中止すると

この外にも、九月二十二日には、歯科医師会の東海ブロック大会が静岡で開催され、渡辺君が講師として出席したのを期に静岡を中心とした一志会が開催された。
総会の報告、決定事項はもとより、以上三つの会の詳細について

いう昨年度総会の決定の再確認。
 三、いそむ会々則に葬祭費の項を追加し、第一号としてこの度鈴木斧吉君の御令室の御外界に際して御香料を差し上げることを決定。
 四、第一回いそむ会々報は青柳善郎君の御努力で完成したので出席者には全員配布、欠席者には後便にて送付することを報告。
 五、来年度総会は安原幸司君、下川迪人君及び佐故昭典君の三氏を現地幹事として御世話戴くことに決定。
 六、本総会の出席者は会員百二十四名中、四十名(三十二%)で御連絡のあった欠席者は二十五名、即ち六十五名(五十二%)が御連絡のあった方々ということになります。
 今後共一層の御協力を賜わり、必ず御連絡を戴けますようお願い致します。

出席者は、増田豊、前田守、中尾澄子、平川幸夫、安原幸司、下川迪人、佐故昭典、山中弘三郎、藤江昭、原恒夫、近藤美千夫、黒須一夫、内田安正、北村明、角倉功、山本秀次郎、渋谷利雄、金指多寿雄、山下正雄、坪井源之、小峯真、水島洋、塚田隆、山田保、榎田正己、真砂善昌、中野年朗、武井範彦、坂本優、斎藤頭、佐藤元、岡田正和、岡駒雄、大森直樹、小熊一路、飯田外茂男、荒木照夫、松崎照雄、大川襄、鈴木和男の四十名です。
 角倉、北村、内田、山中及び原の五氏に今回の御苦勞を謝し、お礼を申し上げると共に、次回の安原、下川及び佐故の各氏に御期待し、よろしくお願いする次第です。

(常任幹事 鈴木和男)

一 期会 (昭和二十八年卒)

◇「一期会第十一回総会」(関東地方支部会準総会)はかねて御案内の如く、去る十一月九日(土)、文京区白山上の中華料理亭白山菜館にて開催された。総計四十六名という昨年群馬県伊香保温泉で行われた十周年記念総会にも劣らぬ多数クラスメートの出席に担当幹事が嬉しい悲鳴をあげる仕末。
 都電通りに面した菜館の二階は、思った程より騒音が少なく、定刻を三十分過ぎる頃、三々五々と集り来た各位は程よく配置された三卓の丸テーブルを囲んで着坐、大森君の司会により会の幕があげられ、会長見明君の「挨拶に先立ち級友故都築次男君の冥福を祈って黙禱を捧げた」

い」旨の緊急提案があり、全員一同起立、衷心から黙禱をささげ同君の冥福を祈った。続いて関東地方支部会というのに九州、中国地方から昨年に引続いて参席された木屋、川口の両君に感謝し、再び都築君のような悲事を起さずに明年の定期総会に全員元気に参席される事を願うとの挨拶が続けられた後、以下型の如く会計報告(昭和三十七年度)庶務報告が羽賀君から一括報告され、全員これを承認、ついで明年度総会の時日、場所につき議案が提出され、種々討議の結果副会長莊君の地元である千葉県鴨川海岸で開催されることに決定、莊君からも承認と全員参加を歓迎するとの挨拶が述べられた。……この間約二十分ではあったが、

料理が出されビール、酒等が卓上に並べられるともはや例会議事は終幕とせざるをえず、ついで懇親会司会者坂田君へとパトントタッチされた。静岡の泉地君の音頭により全員の健康と一期会の発展を祈って乾杯が行われ、各人それぞれのペースで宴会に突入した。七時丁度、津島君の御骨折りで「文京区にもいるぞ」という隠れた芸妓数名が参加、自然と盃を取交すピッチも速くなり、学生時代の酒癖回顧録が再現される場面も現われた。予定された時刻も瞬く間に過ぎ、終宴間近に参席された平井教授を囲んで全員記念撮影を行い第十一回例会は散会となった。その後各グループで二次会に出かけた模様であったが、同夜、ほぼ終宴時刻に東海道線鶴見で列車脱線事故があったことを知っていた者は殆んどな



かったようである。又京浜地区に在住のクラスメイトにも一人の犠牲者がなかったことは無上の慶である。相田、明石、安藤、福田、羽賀、兵衛、出井、今井、石塚、岩井、泉地、鈴木、神尾、金井、片倉、川口、香山、北原、木屋、小菅、倉繁、森、西村、西山、似鳥、大御、大森、尾上、大鶴、斎藤、坂田、鮫島、佐々木、佐藤(博)、佐藤(和)、佐藤(徹)関根、莊、田所、田口、多胡、津島、畦森、山本(勝)、安江、見明
 ◇「一期会だより・十周年記念号」は遅延すること数ヶ月して過日各位に発送致しました。余り上出来ではありませんが、何なりと御叱正いただければ幸いです。又、失礼乍ら会費納入方お願い致しますのほどよろしく願います。以上(役員一同)

法、会の事業計画等について討論し、万場一致で可決いたしました。五時から夕食会に移り、織家、熊倉両幹事の進行で、新副会長金子君の乾杯で始まり、新会長猪鹿倉君の挨拶、次いで出席会員の近況報告、欠席会員の返信披露があり、最後に次期のクラス会開催地京都(予定)を選び終始なごやかなうちに七時をを終了した。
 遠路はるばる御出席された会員に幹事として感謝いたします。又都合で欠席された会員の方も今後よろしく願います。
 猶我々の会の発展のため益々御協力をお願いいたしますが、会報発刊に当って色々な御意見、その他振って御投稿をお願い申し上げます。(二期会幹事)

二 期会 (昭和二十九年卒)

向寒のみぎり諸兄姉には益々御精励の事と存じます。去る十一月十日赤坂のホテルオークラで二期会総会が盛大に行われた。参加した諸兄姉は三十五名、久し振りで元氣な顔を合わせなごやかな一夕を送りました。鶴見の列車事故、或いはホテル側の手違いで、夫々二、三名が出席出来ず残念でした。
 会は四時から、織家幹事の司会で始まり、座長に金子幹事が選出され、会務報告(高橋)、会計報告(瀬端)の後議事に入り、会則の一部変更、追加が行われた。詳細については、後程会報に報告いたしますが、正副会長の選出、支部結成、支部長選出、会費金額の変更及び徴集方

六 喜会 (昭和三十三年卒)



飯店において、第五回総会が、盛大かつ和やかに開かれました。出席者は五十四名に達しました。診療のこと、家族の話、道楽のことなど一年ぶり三年ぶりに会うクラスメートに話は尽きませんでした。八時すぎ散会とし、会員は三々五々ネオンの街に別れてゆきました。

出席会員は次の通りです。

- 足立、服部、徳坂、今泉、稲浜、岩松、片岡、河村、松原、斎藤(一)
- 坂登、重藤、中路、渡辺(渥)、柳町
- 矢頭、藤波、浅井、田島、原、市之川、飯島、宮原、木村、守谷、長島
- 中川、枝、小川(員)、大橋、斎藤(利)
- 佐々木、大和田(美)、清水、菅波、鈴木、東、田沢、渡辺(公)、渡辺(郁)
- 渡辺(晋)、吉田、相庭、角田、荒川、寺本、市川、井上(昇)、佐竹、瀬田、田部井、多田、高橋、君塚

八紫会 (昭和三十五年卒)

いよいよ本年も残り少なくなり、日増に寒さも加わる昨今ではあります。八紫会の皆様におかれましては御健勝におすごしの事と推察いたします。

今年の大きな課題でありました総会は十一月九日赤坂プリンスホテルに全国から六十八人が集まり盛大に開催いたしました。竹井君の名司会によって宴がもりあがった中で、総会の議事が桜井君によって進められました。議事は支部会幹事の紹介に始まり、庶務、会計報告に続いて次回総会地の選定に入り、熱海に万雷の拍手の中で決り、地元幹事の

俊樹君のお世話になることになりました。なごやかな酒宴の中に花をそえて級友の動向に話はずきませんでした。春原君の来年熱海で会いましょうとの声に散会いたしました。もう一つの行事であります会報発行は、アンケート未着が十数名あり、その返信をおまちしている次第です。総会で記念撮影した写真を全員にお送りする様になりました。十二月中旬には到着する様になります。この発送をもって本年度納入会費の領収書に代えさせていただきます (幹事)

現住所変更 (敬称略)

(地番変更を含む)

- 小島豊一 中野区野方町一ノ八二〇 電話(35)七五七七
- 高良瑞穂 (1)鹿兒島市加治屋町一五ノ八
- 小倉信男 (4)和歌山県新宮市下本町二ノ四〇二
- 小倉 耐 電話新宮(2)三三七七
- 二ノ四〇二
- 榎本 越 11千葉県柏市豊四季八二五
- 小川定男 34目黒区上目黒五ノ二六二二七 瀬田内十二号室
- 小川晴昭 30杉並区下高井戸四ノ九〇七 第一大見荘2B
- 喜多見賢治(4)目黒区上目黒五ノ二六二二
- 宮川保範 37栃木県日光市中本町一五二五
- 川野哲也 37大田区蓮沼三ノ一八
- 谷口 齒科
- 木村善浩 33熊本市清水町室園二六
- 電話(31)四六六〇
- 島田清矩 27札幌市平岸二条一丁目二
- 電話(83)七八七三
- 林 健一郎 33埼玉川口市南通町二〇ノ一
- 山下岩男 15東京都小平市小川西町二一九六 小川齒科診療

- 勝股恒美 30埼玉県川越市藤間八五五
- 二園田 豊 12大分市中央町四丁目番二
- 片岡銀雄 3横浜南区大久保町大野七一五
- 杉本是孝 24宮城県宮城郡泉町七北田字八乙女山一ノ二四七
- 立石 光 22千葉市稲毛町二ノ二三
- 電話(12)三九三三
- 五百住司朗 32埼玉県与野市大戸一七七
- 武内 肇 2港区麻布十番三丁目一〇
- 電話(6)五六七九
- 高橋統男 17山形市七日町三丁目五ノ三八
- 電話(3)三三二八
- 中村正尾 文京区肴町九
- 田辺照志朗 7港区麻布十番二丁目十四番地一
- 電話(6)一四〇四
- 鮎沢武輪 24中野区松ガ丘一ノ二ノ四
- 高島一郎 32東京都武蔵野市吉祥寺南町五ノ八七
- 木村種生 北九州市若松区堺町二ノ四四九ノ五

- 成田 始 19.9 愛知県西尾市天王町五五
- 西岡 亨 16.12 山口県光市虹ヶ浜町二三
- 大川村太 福岡県大牟田市右町三三
- 小林広康 32長野県下伊那郡高森町下市田二九四〇
- 杉本雅英 22横浜市鶴見区鶴見町一四
- 電話(50)〇二〇〇
- 中井一仁 37中野区打越三九小春荘
- 電話(38)二〇九八
- 赤沢 実 9葛飾区亀有町六ノ二二五
- 電話(66)二五七〇
- 井上 藤夫 31東京都三鷹市幸礼一六六七 三鷹台地七号一〇六号館
- 高木照雄 26千葉県市川市北方町二ノ八一三
- 竹内民勝 9目黒区下目黒四ノ八七一
- 電話(12)八四三八
- 石井俊文 29東京都三鷹市幸礼一六六七 三鷹台地九号一〇四号
- 芦刈雄雄 37滋賀県八日市市浜野町五二四
- 住井泰之 34滋賀県蒲生郡日野町大窪五五四
- 電話近江日野二〇〇
- 小泉 仙 28青森県中津軽郡岩木町賀田
- 清野 晃 37栃木県小山市神明町一ノ一〇七 田中
- 金子康雄 27岩手県盛岡市肴町四番二五号
- 大久保泰男 25茨城県龍ヶ崎市栄町四三三二
- 高階 三 35横浜市保土ヶ谷区下川井町一〇七〇
- 渡辺 正 (7)板橋区大山町五仲村衛

- 若松 晋 34横浜市神奈川区子安通二ノ二八二 出水齒科医院 電話(44)七五二九
- 野口八重 31世田谷区玉川尾山町三三
- 広田一夫 10愛知県蒲郡市三谷弥生三ノ四五 電話蒲郡二三三
- 伊藤陽子 衛大田区田園調布四ノ五二ノ九 電話(72)三三四二
- 高良瑞穂 (1)鹿兒島市加治屋町一五ノ二
- 小野瀬雄男 34茨城県稲敷郡牛久町田宮一七
- 倉橋和啓 30東京都大田区東蒲田一ノ三
- 倉橋知子 30東京都大田区東蒲田一ノ三
- 大儀見重夫 37東京都中央区銀座西三ノ三 第二増ビル二〇一
- 飯塚豪男 23東京都板橋区志村町四ノ一七
- 柿原不器郎 2石川県金沢駅前金沢ビル 四階金沢ビル 齒科診療所
- 柿原昌一郎 34石川県金沢駅前金沢ビル 四階金沢ビル 齒科診療所
- 滝沢一郎 (1)東京都台東区浅草寿町三ノ五 電話(1)一三二七
- 村松久成 23山梨県西八代郡大郷町岩間八九四ノ三
- 電話岩間七一
- 秀 守生 34東京都板橋区板橋六ノ三四七二 電話(919)七三三
- 高梨一美 13埼玉県浦和市前地町二三

科電話(956)二四八〇

ノ八一電話(048)二二一四
三二五
豊田良介 12山形県山形市本町一ノ
四ノ二六電話山形三八
三七
永井淳夫 27新潟県加茂市五番町土
手通り
電話加茂一八一二
恩田千爾 30神奈川県横浜市金沢区
六浦町三九四三
盆子原光美 37北海道稚内市港町三丁
日北海歯科医院
電話二七三三
竹田真二 25山形県米沢市屋代町上
の町電話米沢(3)一〇四
三宅久夫 (14)鹿児島市東千石町八〇
電話(2)三八四八
大塚重雄 34宮城県亶理郡亶理町五
日町三〇電話五七
岡村親和 19.9板橋区東山町三一
電話(95)三〇一〇
呉 崇亮 22神奈川県川崎市百合ヶ
丘一ノ一八ノ一〇
竹内茂雄 35愛知県名古屋市中北区上
飯田通三ノ四六
腰原 好 35千葉県船橋市金杉二二
五二
小宮善昭 35埼玉県所沢市緑町三ノ
二ノ八
大橋 叔 32渋谷区西原一の一五
品村正己 板橋区大原町七
電話(96)三六四八
大沢三武郎 10埼玉県大宮市土手町三
ノ二〇一
電話大宮一五二五
服部左門(4)杉並区下井草三の三六の
十八
支門 33電話(39)五九四八
改 姓
上矢美代子 37橋本美代子に改姓

横浜市戸塚区長沼町二
〇六
堀野元年 16.12愛媛県伊予市灘町四丁
目 電話四一四
田中涼二 35飯田涼二に改姓
川崎市古市場一七五二
長野陽子 37川崎陽子に改姓
愛知県一ノ宮市大和町
宮地花池西屋敷七八
関町比奈子 37清野比奈子に改姓
栃木県小山市神明町一
ノ一〇七田中方
倉繁瑞枝 37滝 瑞枝に改姓
愛知県一ノ宮市柳町六
浦辺 貢 34山田 貢に改姓
神奈川県足柄下郡真鶴
町真鶴三五九
山崎珠子 37金山珠子に改姓
富山県高岡市小馬出町
三三三
掛川和子 35桜井和子に改姓
東京都荒川区荒川四ノ
七
逝去会員
関 孫三郎君 三八、九、二一
札 幌
富田 薫君 三八、九、三〇
千葉県
岡崎善十郎君 年月不詳
札 幌
大関 薫君 三八、一〇、一〇
栃木県
橋本 正雄君 三八、九、二二
北 信
栗林松次郎君 三八、九、二八
北 信
萩野 利勝君 三八、一〇、二七
岐阜県
河角 豊君 三八、一〇、二七
世田谷
宇津木龍雄君 三八、一〇、二三

二宮 金雄君 三八、一〇、二四 秋田県
矢野 薫三君 三八、一、一 山口県
海野 亀松君 三八、一、一 愛媛県
木許 文佑君 年月不詳 江戸川区
大分県
八頁三段目のつづき
7 大久保義雄 都 東京 20、3、10 戦災
17/9 杉山勝彦君 兵庫 20、7、2 戦死
18/9 矢島 仁君 都 東京 19、5、6
18/9 牛久保博一 都 東京
18/9 細野四郎君 都 東京 19、6、11 戦病
18/9 橋本孝三君 都 東京
18/9 杉田 詳君 都 埼玉
18/9 佐藤茂信君 都 岡山 20、9、15 戦災
18/9 石黒悦朗君 都 富山
18/9 森下元美君 都 栃木 22、6、7 戦死
18/9 八尾博三君 都 東京
18/9 竹永崇惟君 府 大阪
18/9 藤江 進君 都 愛知 20、8、17
18/9 中尾侃一郎 都 鳥取 20、3、10
18/9 寺部晴夫君 都 愛知 20、7、18
18/9 塚本二惟君 都 静岡 19、7、8
18/9 米沢 璋君 都 三重
19/9 齋藤豊彦君 都 東京
19/9 小林 馨君 都 群馬 19、12 病死

図書館だより
第二十四号
左記に列記したものは、最近図書館で
購入した専門書の一部です。
このリストは、逐次掲載されますから
図書目録として御利用になれば、御便利
かと存じます。

【和書】
田能庄三郎編 図説口腔病理学—実
習用—医歯業出版 昭三八
赤松保之等著 病理組織学実習—病
理組織診断の手びき—南山堂 昭
三八
梅沢浜夫著 抗生物質の話(岩波新
書) 岩波書店 昭三七
鈴木 尚著 日本人の骨 (岩波新
書) 岩波書店 昭三八
時実利彦著 脳の話 (岩波新書)
岩波書店 昭三八
【洋書】
Nagle, Raymond J. 440-B-28
Denture Prosthetics: Complete Dentures, 2nd ed. St. Louis, The
C. V. Mosby Co., 1962. 516p.
Farrell, John H. 441-28
Partial Denture Designing. London, Henry Kimpton, 1962. 166p.
Sicher, Harry ed. 515-D-8
Orban's Oral Histology and Embryology. 5th ed. St. Louis, The
C. V. Mosby Co., 1962. 406p.
Scherp, Henry W. 562-C-3
Oral Microbiology and Infections Disease. 2d ed. Baltimore, The
Williams & Wilkins Co., 1962. 1003p.
Goldman, Henry M. et al. 411-533
An Introduction to Periodontia. St. Louis, The C. V. Mosby Co.
1962. 367p.
Miller, Charles Jay. 440-63
Inlays, Crowns and Bridges: An Atlas of Clinical Procedures. Phila
delphia, W. B. Saunders Co., 1962. 268p.

古畑種基、山本勝一共著 歯科法医学
学 医歯業出版 昭三八
古畑種基著 一本の毛は語る—科学
捜査物語—良書普及会 昭三八
河辺清二著 局部床義歯学 四 各
論Ⅲ 三類義歯のつくり方 永末
書店 昭三八
口腔細菌学談話会編 歯学微生物学
医歯業出版 昭三八
松宮誠一、鈴木鍾美、田能庄三郎共
著 臨床口腔病理学図説Ⅱ、及び
解説 東歯大出版部 昭三八

次号第九十六号の原稿締切は昭和三十九年一月二十日です